

弘前「マルシェ」で食やゲーム体験

仏文化 見て触れて



弘大生 多彩な企画を満喫

フランス語圏の文化が体験できる「フランス日和」マルシェ2019」が28日、弘前市土手町の蓬莱広場で開かれた。訪れた市民らは、仏発祥のクロワッサンを食べたり、ゲームを通して仏語を学んだりして楽しんだ。

(猿山結衣)

このイベントは弘前大学人文社会科学部の学生で構成する「弘前グローバル・アクション」が開いたもので、今回で6回目。昨年までは市の市民参加型まちづくり1%システム事業を活用したが、今年度は学生が市内の企業などから協賛金や広告収入を得て開催した。市民らはシールドや仏菓子などを試食・購入したほか、仏語と絵

フランスの食事や文化に触れられるさまざまな企画でにぎわう「フランス日和」

柄が記されたカードを使った神経衰弱や「さ

らざら星」を仏語で歌うなどして楽しんだ。また、今回初めて、近畿大学フランス文学専門の教師らによる仏文

の授業も行われた。同市の石郷岡柚香ちゃん(5)は「神経衰弱が楽しかった。ボンジュール(こんちは)を覚えた」と笑顔を見せた。

主催した同学部3年生の齋藤利帆代表は「金集めは大変だったが、地元弘前を盛り上げられる場をつくってくれた」と話した。

この画像は、当該ページに限って陸奥新報の記事利用を許諾したものです。

転載ならびにこのページへのリンクは固くお断りします。